

# 平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 3月 29日
研究・研修課題名	骨髄検査技師資格維持のための単位取得
研究・研修組織名 (所属)	兒玉 るみ (検査部)
研究・研修責任者名 (所属)	兒玉 るみ (検査部)
共同研究・研修実施者名 (所属)	

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得、 <input type="checkbox"/> その他の成果( )
該当者名(所属)	兒玉 るみ (検査部)
学会名(会期・場所・認定名等)	骨髄検査技師
演題名・認証交付先等	日本検査血液学会
取得日・認定期間等	2017.4.15～2022.12.31

## 目的及び方法、成果の内容

### ① 目的

骨髄検査技師資格は、血液検査分野における高度の学識と技術を有する臨床検査技師の育成を図り、より良質な医療を国民に提供することを目的とした制度である。骨髄検査技師の知識と技術の維持、そしてさらなる向上を図るために学会で開催されるセミナー等に参加し単位を取得し次期更新に備える。

### ②方法

認定血液検査技師および骨髄検査技師更新のためには有効期間内に資格審査基準単位を取得することと資格更新試験を受験することが必須となる。今回、第19回日本検査血液学会学術集会（2018年7月21～22日 大宮ソニックシティ（さいたま市）にて開催）において、教育講演およびシンポジウムに参加し単位を取得する

### ② 成果

第19回日本検査血液学会学術集会において、教育講演およびシンポジウムを中心に参加した。教育講演では、「形質細胞腫瘍の診断と治療の進歩」、「悪性腫瘍と血栓」、「新DIC診断基準の評価とDIC診断の問題点」が興味深く最新の情報を得ることができた。特に形質細胞腫瘍の診断と治療の進歩については、日頃から自家末梢血幹細胞移植療法に関わる機会も多く、また治療方法によってフローサイトメトリーの解析を検討したりする必要があることも学び、今後の検査に役立つと考えられた。シンポジウム1では『特発性血栓症』について小児での血栓症や周産期での血栓症などについて学んだ。シンポジウム2では『WHO分類2017の改訂点-診断への活用を目指して-』について、骨髄検査技師として骨髄分類における改訂点を急性骨髄性白血病、骨髄増殖性疾患、骨髄異形成/骨髄増殖性腫瘍について学び、業務に活用できる情報を得て有意義であった。夜はイブニングセミナーにも参加し「骨髄異形成症候群の病態と診断」について遺伝子変異を中心に学ぶことができた。今回学術集会で得た知識は骨髄検査技師として血液形態検査水準や診断精度の向上に大いに役立ったと考える。また学生や研修医への教育、後進の指導という観点でも有用であったと考える。